

■ 門司港

- ◆往き 08:38 発→10:00 着 (1時間 22分) 1,470円 JR鹿児島本線快速 1番線
09:08 発→10:46 着 (1時間 38分) 3番線 09:29 発→10:59 着 (1時間 30分) 2番線
- ◆復り 14:51 発→16:22 着 (1時間 31分) 15:06 発→16:43 着小倉7番線 (1時間 37分)
15:24 発→17:04 着 (1時間 40分)



門司港 <http://www.mojiko.info/>

明治二十四年に建てられた門司駅（現在の門司港駅）は、大正三年に場所を二百メートルほど移し、現在の場所に立て替えられました。ネオ・ルネッサンス調の木造建築で、ドイツ人技師ヘルマン・ルムシュッテルの監修の下に建てられました。当時の駅のモダンさを知るにはトイレを覗いて見ると分かります。青銅製の手水鉢や水洗式トイレ（当時としては非常に珍しい）、大理石とタイルばりの洗面所、御影石の男性用小便器などはとても重厚でモダンな作りとなっているのです。二階にはハイカラなみかど食堂があり、鉄道を利用する客で大変にぎわっていました。この門司港駅、駅舎としては初めて国の重要文化財に指定されています。

古き良き時代と現代が融合した街，門司港。



レトロエリアには大正、昭和のモダンな建物が今でも残っており、当時の雰囲気は今でも感じられます。古い物と新しい物の織りなす景観調和は古くもあり、新しくもある。そんな不思議な魅力を持ち合わせている街が門司港レトロです。明治・大正期には中国大陸との貿易も盛んで、ヨーロッパの船も寄港していました。それ故いろいろな文化からの影響が見られ、それも門司港レトロ観光の見所の一つとなっています。

お勧め散策モデルコース

シーサイドコース(1~2時間コース)

3 門司港駅 → 1 関門海峡ミュージアム → ブルーウィंकもじ → 港ハウス → 10 門司港レトロ展望室 → 9 旧門司税関 → 国際友好記念図書館 → 海峡プラザ → 7 旧大阪商船 → 8 旧門司三井倶楽部 → 3 門司港駅

街なか探検コース(2~3時間コース)

3 門司港駅 → 4 関門海峡らいぶ館 → 5 九州鉄道記念館 → バナナの叩き売り発祥の地 → 三宜楼 → 栄町銀天街 → 昭和レトロ館 → 小原市場 → 中央市場 → 旧岩田酒店 → 12 門司電気通信レトロ館 → 11 出光美術館 → 10 門司港レトロ展望室 → 港ハウス → 9 旧門司税関 → 国際友好記念図書館 → 海峡プラザ → 8 旧門司三井倶楽部 → 3 門司港駅



1 関門海峡ミュージアム (海峡ドラマシップ) (MAP:A-2)



関門海峡の過去・現在を五感で感じられるミュージアムです。海峡にまつわる歴史を再現した「海峡アトリウム」「海峡歴史回廊」をはじめ、大正時代の街並みを再現した「海峡レトロ通り」など見どころ満載です。

■営業時間及び休み/9:00~17:00・年5日休館日あり
■料金/大人500円・小中学生200円(30人以上の団体20%引)
■TEL (093)331-6700



2 旧大連航路上屋・松永文庫 (MAP:A-2)



昭和4年に建てられた門司税関1号上屋が、平成25年に門司港レトロの大型休憩施設として、リニューアルオープンしました。1階には北九州市や大連市にまつわる展示や、映画・芸能資料館「松永文庫」が入っています。

■営業時間及び休み/9:00~17:00・年4回休館日あり
■料金/無料
■TEL/旧大連航路上屋(093)322-5020・松永文庫(093)331-8013

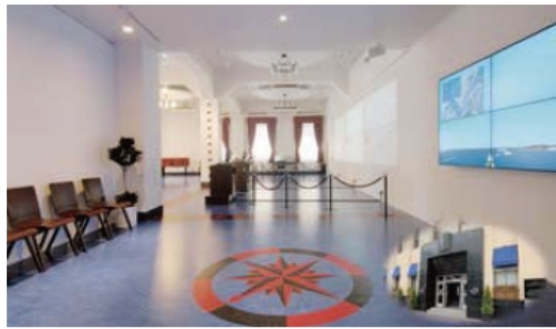
3 門司港駅工事見学デッキ (MAP:B-3)



現在、駅舎は保存修理工事を行っていますが、駅前広場に整備した見学デッキからは、駅舎内部の様子が見学出来るようになっています。

■利用時間/9:00~17:00
荒天時及びメンテナンス時は閉鎖

4 関門海峡らいぶ館 (MAP:B-3)



「関門海峡らいぶ館」は、関門海峡に設置したライブカメラを操作して海峡を通航する船舶の生映像を見ることができ、海峡を航行する大型船の操船シミュレーション映像による疑似体験や、船舶の国籍や行き先、大きさなどの確認ができます。このほか、航空写真や電子海図で関門海峡の詳細な地形や海底の状況を学習できるなど情報がいっぱいの海事資料館です。

■営業時間/9:00~18:00 ■TEL (093)322-5002
■休館日/第2・第4木曜日、年末年始(12/29~1/3) ■料金/無料

5 九州鉄道記念館 (MAP:A-3)



旧九州鉄道本社(通称:赤レンガ)が、九州鉄道記念館として生まれ変わりました。懐かしい実物車両や鉄道文化遺産の展示、運転体験施設、九州の鉄道大パノラマ、ミニ列車を自分で運転して線路を走れるミニ鉄道公園などがあります。

■営業時間及び休み/9:00~17:00・毎月第2水曜日(但し7月は第2水・木曜日)8月は無休 ■料金/大人300円・中学生以下150円(30人以上の団体20%引) ■TEL (093)322-1006

6 北九州銀行レトロライン「潮風号」(MAP:B-3)



優しい潮風を愉しむトロッコ列車の旅に出かけませんか。

■運行日/3月中旬~11月末の土・日・祝と
春・夏休み、GWの毎日運行
■運行時間/10:00~17:00
■運行区間/九州鉄道記念館駅~関門海峡めかり駅
■運賃(片道)/大人300円、小人150円
■お問い合わせ/平成筑豊鉄道株式会社 門司港事業所
TEL (093)331-1065

7 旧大阪商船 (MAP:B-3)



八角形の塔屋と鮮やかなオレンジ色の外壁が目印。大正6年(1917)に建てられた大阪商船門司支店を修復したもので、現在、1階は海峡口マンホール、2階は「わたせせいぞうと海のギャラリー」「門司港デザインハウス」です。

■営業時間及び休み/9:00~17:00 無休 ギャラリーのみ展示入れ替えのため休館日あり ■料金/わたせせいぞうと海のギャラリーのみ 大人100円・小中学生50円(30人以上の団体20%引) ■TEL (093)321-4151



8 旧門司三井倶楽部 (MAP:B-3)



大正10年(1921)に三井物産の接客・宿泊施設として建築されたもので、翌年にはアインシュタイン夫妻が宿泊しています。1階はレストランやイベントホール、2階にはアインシュタインメモリアルルームと作家・林芙美子の資料室があります。

■営業時間及び休み/9:00~17:00 無休
■料金/大人100円・小中学生50円(30人以上の団体20%引)
■TEL (093)321-4151



9 旧門司税関 (MAP:C-3)



明治42年(1909)の門司税関発足を契機に、明治45年に建てられた煉瓦造り瓦葺平屋構造の建築物。昭和初期まで税関庁舎として使用されました。1階は休憩所、税関PRコーナー、2階は美術ギャラリーです。

- 営業時間及び休み/9:00~17:00・無休
- 料金/無料
- TEL (093)321-6111



10 門司港レトロ展望室 (MAP:C-3)



日本を代表する建築家・黒川紀章氏が設計した、高層マンション「レトロハイマート」の31階に「門司港レトロ展望室」があります。展望室にはカフェもあり、景色を眺めながらゆっくり楽しんでいただけます。

- 営業時間及び休み/
10:00~22:00(入館は21:30まで)・年4日休館日あり(不定期)
- 料金/
大人300円・小中学生150円(30人以上の団体20%引)
- TEL (093)321-4151



11 出光美術館 (門司) (MAP:C-3)



出光興産の創業者、出光佐三氏が集めた陶磁器や絵画などの美術品を所蔵する私立美術館です。古い倉庫を改築したこの美術館は、大正期の倉庫の雰囲気を伝える建物の外観を残しています。

- 営業時間及び休み/10:00~17:00・月曜休館、年末年始、展示替期間
- 料金/一般600円・高大学生400円・小中学生無料(但し保護者同伴に限る)(20人以上の団体100円引) ■TEL (093)332-0251

12 門司電気通信レトロ館 (MAP:C-3)



大正13年(1924)に通信省門司郵便局電話課庁舎として完成。門司における最初のモダン建築物で、洗練された大正モダンを今に伝えています。1階に明治から平成にかけて活躍した電信・電話器の展示コーナーがあります。

- 営業時間及び休み/9:00~17:00(入館は16:30まで)
月曜日休館(祝日の場合は翌日)、年末年始
- 料金/無料 ■(093)321-1199

■ 和布刈エリア

http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kensetu/file_0302.html

九州の北端瀬戸内国立公園内に位置し、関門海峡を挟んで対岸間近に本州を望むことが出来る公園です。北九州市を代表する観光地となっており、急流が渦巻く関門海峡、関門橋の壮大な眺めは、多くの人を楽しませてくれます。

また、園内には、全国的にも珍しい塩水を利用したプール、国内最大級の有田焼による壁画「源平壇之浦合戦絵巻」が整備されています。



ノーフォーク広場



源平壇之浦合戦絵巻壁画

■ 関門橋 【Wikipedia】

関門海峡の最狭部である下関市壇之浦と北九州市門司区門司（和布刈地区）を結ぶ。1973年に開通。橋長1068m、最大支間長712mは、若戸大橋（橋長627m、最大支間長367m）をしのぎ、開通時点では日本および東洋最長の橋となった（1983年開通の因島大橋が関門橋を上回る規模の橋として完成し、その後もより大規模な橋梁が複数架設されている）。若戸大橋と並んでその建設は明石海峡大橋など国内の長大橋の先駆けとなった。

形式は標準的な3径間の吊り橋で、補剛桁はトラス。橋梁等の防食法には溶射が採用されている。関門海峡は大型船舶も航行する重要航路であることから、桁下から海面までは61mの高さを確保している。主ケーブルの直径は67cm（直径5.04mm素線、14014本）、ハンガーケーブルの直径は53cm。

■ 関門海峡ミュージアム http://www.mojiko.info/3kanko/spot_drama.html

平成15年にオープンした、関門海峡の過去・現在を五感で感じられるミュージアムです。海峡にまつわる歴史を再現した「海峡アトリウム」「海峡歴史回廊」をはじめ、大正時代の街並みを再現した「海峡レトロ通り」など見どころ満載です。

■ 旧門司税関 http://www.mojiko.info/3kanko/spot_zeikan.html

旧門司税関は明治42年（1909）に門司税関が発足したのを契機に、明治45年（1912）に煉瓦造り瓦葺2階建構造で建設されたものです。昭和初期までは、税関庁舎として使用されていました。平成6年には北九州市が赤煉瓦を特注し、建物の復元を行い、近代的なデザインとモダンなネオルネッサンス調が交わり非常に奥深い建物となりました。1階は天井吹き抜けの広々としたエントランスホール、休憩室、喫茶店「レトロカフェ」、展示室、2階はギャラリーと関門海峡や門司港レトロを一望できる展望室となっています。

■ 国際友好記念図書館 http://www.mojiko.info/3kanko/spot_kokusai.html

中国の遼東半島にある都市、大連市はかつて門司港とは国際航路で結ばれ交流が盛んでした。そして、昭和 54 年に両市は友好都市を締結し更なる交流を深めてきました。その友好都市締結 15 周年を記念し、ロシア帝国が明治三十五年（1902）大連市に建築した東清鉄道汽船事務所を、そっくり複製し建築されたものが国際友好記念図書館です。ドイツ人技師が設計した特異な建築様式で作られていて、エキゾチックな外観がすばらしい雰囲気です。国際友好記念図書館の一階はレストラン、二階は中国・東アジアの文献を収蔵した図書館、三階は資料展示室となっています。